

県立高校教育改革実施計画

ダイジェスト版

平成17年3月
山形県教育委員会

第5次山形県教育振興計画の目標

知徳体が調和し、「いのち」輝く人間の育成

本県高校教育の目標

高い志と挑戦する心を持ち、自己実現を図る人間の育成

郷土に誇りと愛着を持ち、地域社会・産業の発展を担う人間の育成

教育の条件整備

● 基礎・基本の定着を図り個々の能力を引き出す教育

- シラバス（年間指導計画）の作成・配布
- 指定校等における指導法改善等の研究と普及
- 県内高等教育機関との連携強化

● 開かれた学校づくり

- 学校評議員制度の活用
- 自己評価と外部評価を含めた学校評価システムの確立
- 生徒による授業評価の積極的な導入

● 地域産業の振興と地域社会の発展を担う人材の育成

- 地域産業等との連携による体験的学習を通じた職業能力の育成
- 社会奉仕体験活動・「まちづくり」への参画の推進
- 地域の自然・歴史、精神文化、産業等に関する学習の導入

● 教員の資質向上

- 基本研修・専門研修の実施と大学院等への教員の派遣
- 教員のモラル向上を図るための研修の実施
- 授業公開等による外部評価の機会確保と教員評価システムの検討
- 指導が不適切な教員への指導

● 勤労観・職業観の育成

- 活躍する卒業生・社会人等による講話・授業
- インターンシップ（就業体験）の推進
- キャリア教育の在り方についての調査・研究

● 施設・設備の充実

- 学校の統合等の動向を踏まえた改築・大規模改修等の計画的推進
- 計画的な耐震診断の実施と耐震化推進計画の作成・推進
- 次世代を担う技術者育成に必要な産業教育設備の充実

● 柔軟で多様な教育制度の確立

- 学校の個性化・多様化の一層の推進と中学生への情報提供の充実
- 多様なコース・選択科目など、多様で柔軟な教育課程の編成
- 転編入学の積極的な受入れと定通教育の在り方の検討

● 少子化への対応

- 55学級程度の削減
- 適正な学校規模（1学年4～8学級）の確保
- 学校の統廃合の推進

平成17年度～平成19年度年次計画とその後の検討課題

(: 1学級減 : 学科改編 [] : 市立高校)

学区	平成16年度学級数(公立) 平成16年3月中卒者数	年次計画			検討課題		平成26年度学級数(公立) 平成26年3月中卒者数
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度～平成23年度	平成24年度～平成26年度	
東	84学級 5,182人	[山形商業(商)]	上山明新館(農) 谷地(商)		検討会	西村山地区の高校の再編	73学級程度 4,329人 (-853人)
北	41学級 2,422人	北村山(商) 新庄南(家)	東根工業(工)	北村山 (普・商)(総)	検討会	北村山地区の高校の再編	29学級程度 1,681人 (-741人)
南	53学級 2,815人	米沢東(普) 南陽(商) 荒砥(普)	米沢興譲館(普) 米沢商業(商)		検討会	西置賜地区の高校の再編	39学級程度 2,167人 (-648人)
西	70学級 3,577人	庄内総合(総) 酒田工業(工)	鶴岡南(普) 酒田北(普)		検討会	酒田市内の高校の再編	52学級程度 2,830人 (-747人)
		8学級減	7学級減	25学級程度減		15学級程度減	55学級程度減
	計248学級 13,996人	中学校卒業生数に応じて、学校の統合、学級減及び募集停止により入学定員を削減します。 現在1学年当たり2学級の学校及び5教振期間中に2学級になった学校で、入学者数が入学定員の3分の2に満たない年度が平成17年度以降2回になった場合は、原則としてその翌年度から入学定員を1学級分に減じます。また、1学級分に減じた2年後に分校とします。分校については、原則として募集停止とします。					計193学級程度 11,007人 (-2,989人)

()は対16年

定時制・通信制の在り方について検討します。

学校の再編を検討する中で、総合選択制高校の設置を検討します。

普通科単位制について、これまで導入した学校の成果を踏まえ、他地域への拡充を検討します。

中高一貫教育校の新たな設置について、調査研究を行います。

問い合わせ先 山形県教育庁高校教育課高校改革推進室
〒990-8570 山形市松波二丁目8-1
TEL.023-630-3067 FAX.023-630-2774
E-mail kokokaikaku@pref.yamagata.jp
計画の詳しい内容についてはホームページでもご覧いただけます。
<http://www.pref.yamagata.jp/>